

平城宮跡第一次大極殿院地区 管理・活用に伴う施設整備について

<方針と検討事項要旨>

平城宮跡第一次大極殿院跡の復原整備にあたっては、管理と活用のために設備設置と施設整備が必要な箇所がある。施設整備としては以下の事柄が必要となる。

1. 管理用施設
2. 展示用施設
3. スロープ、斜路等の通路

また、このほか電気及び機械の設備設計において設備の格納施設等が検討されている。

1. 管理用施設

(1) 管理用詰所

検討経緯	殿院地区南西側から 20m 程の位置に新設する「情報案内施設」に含める予定。
事務局方針	回廊内には詰所の新設はしない。
検討事項	-

(2) 防犯施設(管理用柵)

検討経緯	地盤面には傾斜があり、柵に段差がつかない案が景観上好ましい。また、柵には大極殿正殿などに倣い、機械警備をすることが望ましい。
事務局方針	管理用柵は正殿と同等品の高さ 1.5m 程度のステンレスフェンスを用いて傾斜対応可能なものとする。管理用柵と併せて赤外線センサーを廻す。
備考	出入口部は柵と併せたキャスター式もしくはレール式引戸が考えられる。穴門前は傾斜が 3.5%あり、出入口部と引戸引込部分を水平にする必要がある。(折りたたみ式の門扉戸とすれば、水平にする必要はない。)

2. 展示用施設

展示に伴う諸設備は今年度同時に検討している展示内容の検討と合わせながら進める必要がある。

(1) 展示スペースの仕様

検討経緯	回廊内は、復原建造物の鑑賞を阻害しないように最小限の整備の転落防止用のガラス柵を設ける案が望ましい。
事務局方針	西面回廊等への展示スペースには、安全性、復原建造物の鑑賞を阻害しない視点から、基壇縁部に転落防止用として高さ 1100mm のガラス柵を設ける。
検討事項	西楼部分を正殿と同じようにガラスで囲う仕様とするかは、展示計画と合わせて検討する。

3. 通路等

殿院地区は、見学、管理、緊急時の消火活動や救助のために以下の通路が必要である。

- ・スロープ
- ・身障者用通路
- ・緊急車輛等通路

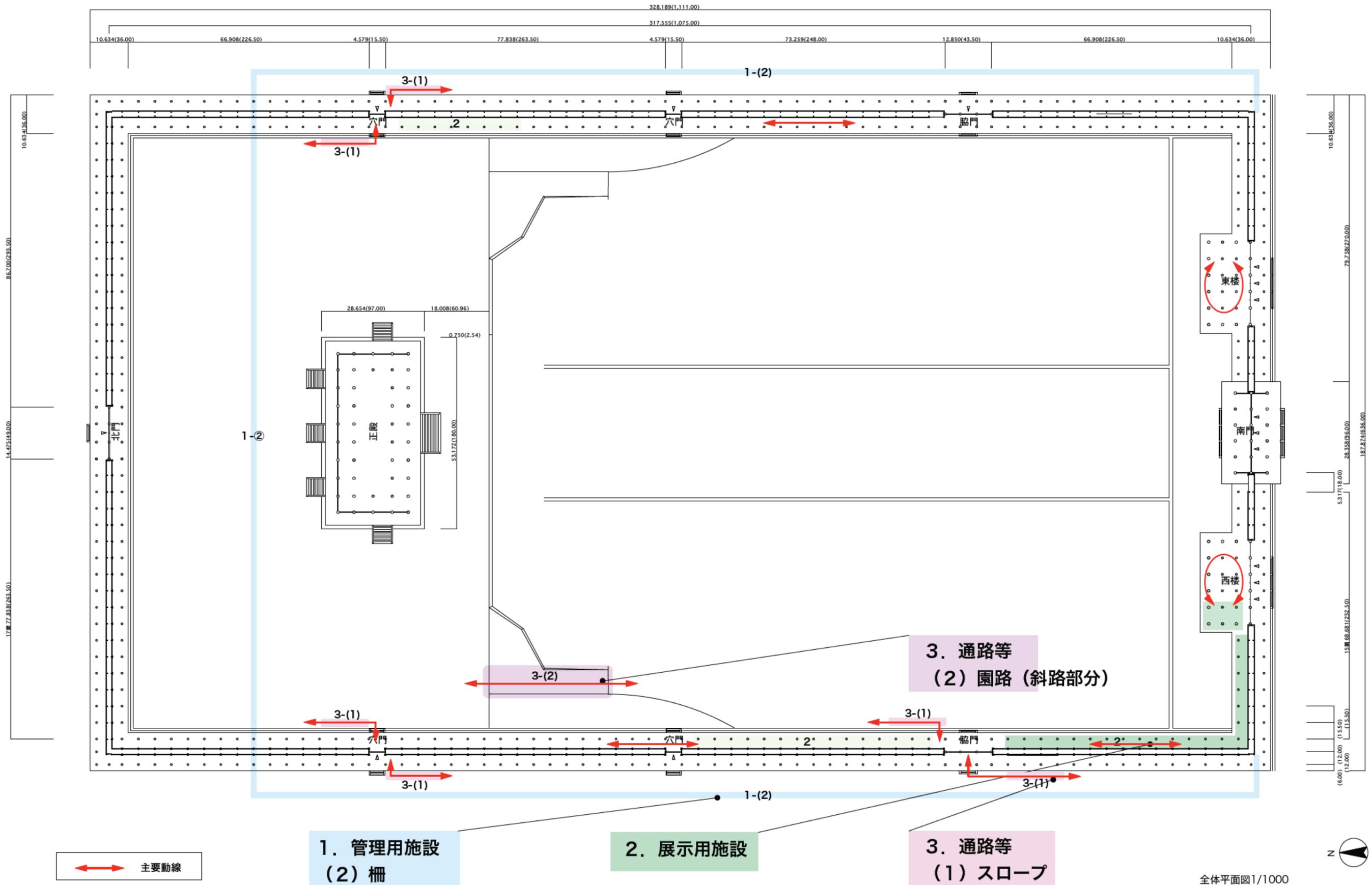
(1) スロープ

検討経緯	雨落真下にスロープを設置すると劣化しやすくなるため、雨落を避ける案が望ましい。
事務局方針	回廊の内外に雨落を除けてスロープを設置する。
検討事項	斜路の部分は、亀腹の復原整備案にあわせて検討が必要である。

(2) 身障者用通路・緊急車輛等通路

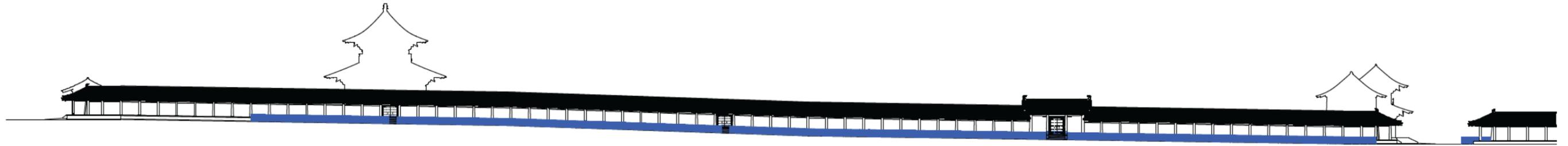
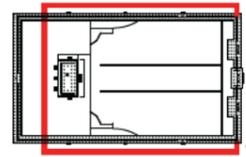
検討事項	配置や幅員及び仕様を検討する。 また、暑さ対策のため散水も検討していることから、それら設備との取り合いも検討を要する。
------	--

管理・活用に伴う施設の検討資料



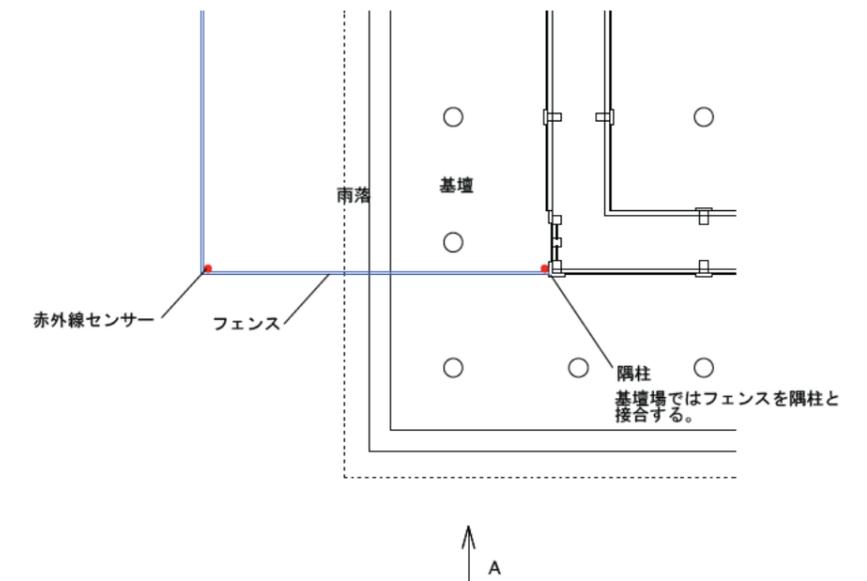
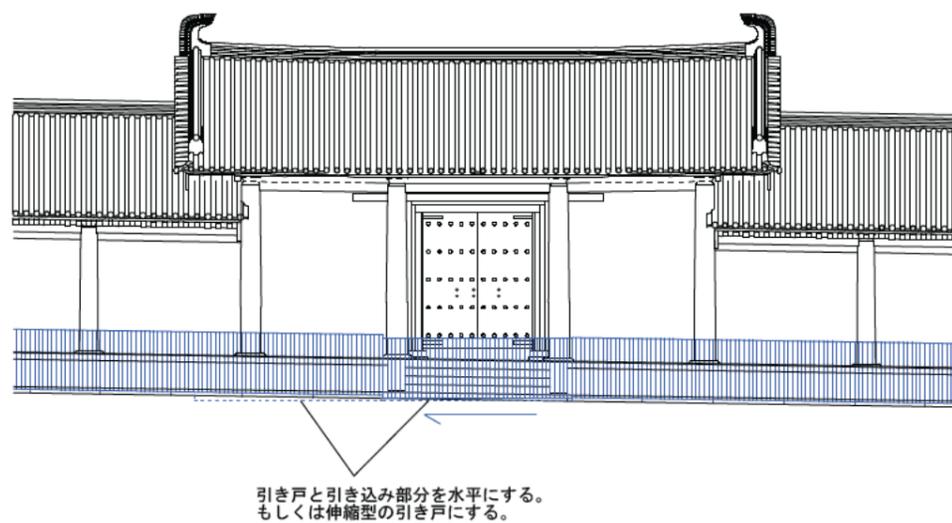
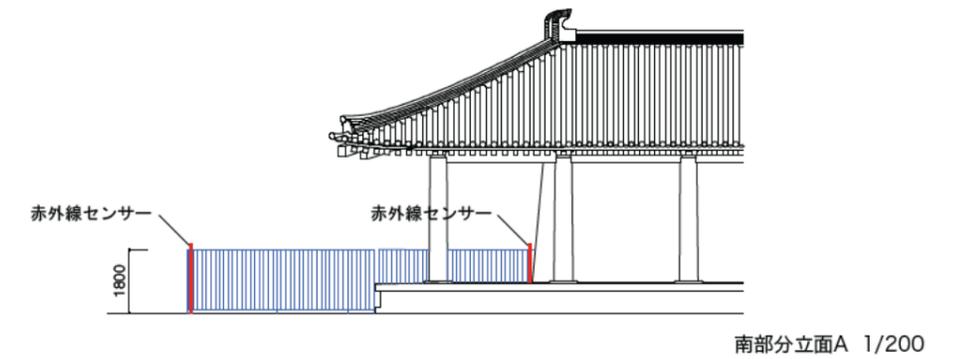
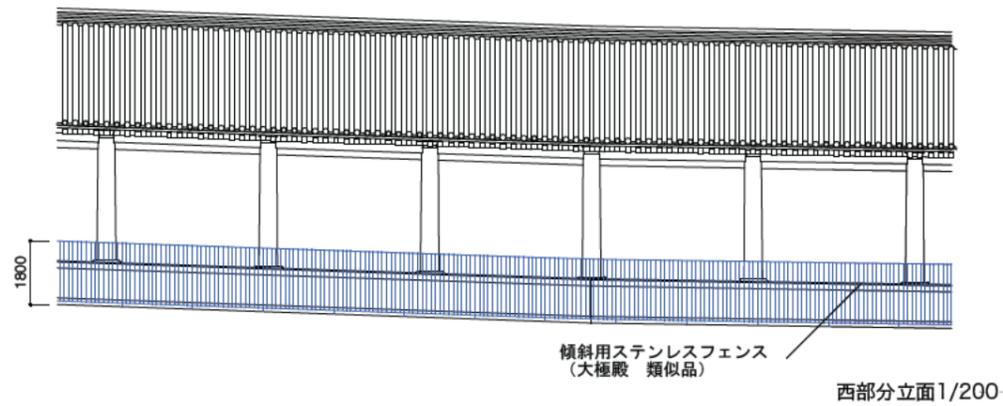
1. 管理用施設

(2) 管理用柵、赤外線センサー



西立面1/1000

南部分立面1/1000



回廊南西隅部分平面図1/200

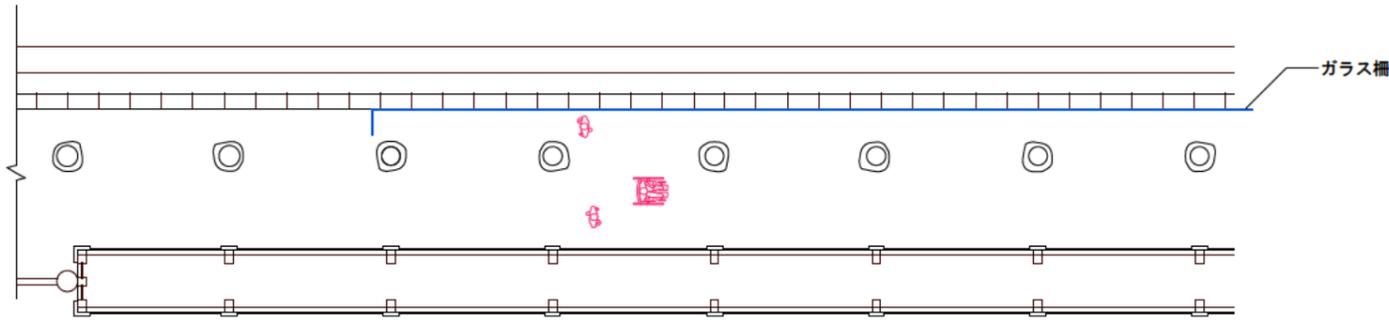
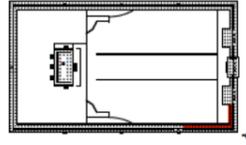
傾斜対応型の正殿と同等品のフェンスとする

〈方針〉管理用柵は正殿と同等品の高さ1.8m程度のステンレスフェンスを用いて傾斜対応可能なものとする。

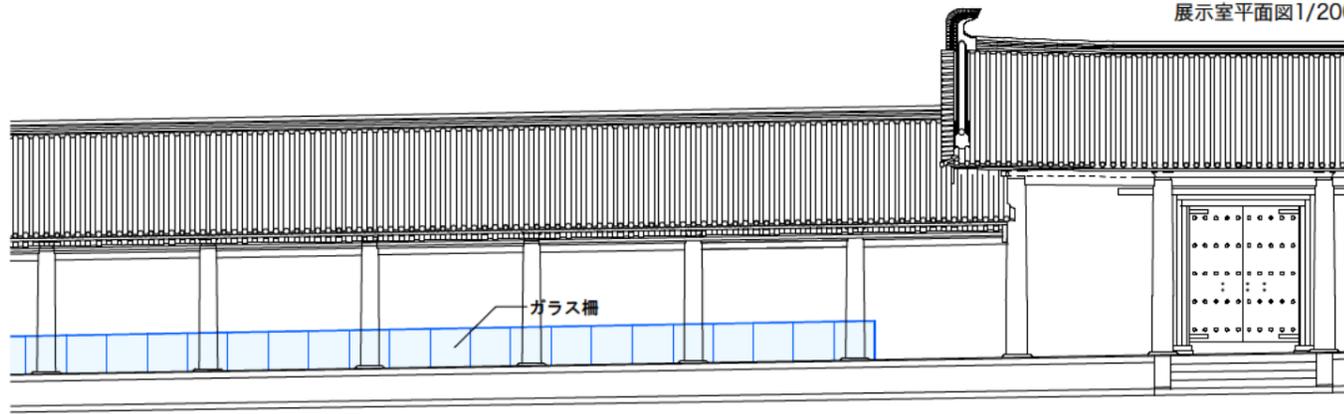
〈検討事項〉脇門前には、キャスター式もしくはレール式引き戸とし、出入口部と引き込み部分を水平にする必要がある。

伸縮型の引き戸であれば、水平にする必要なし。

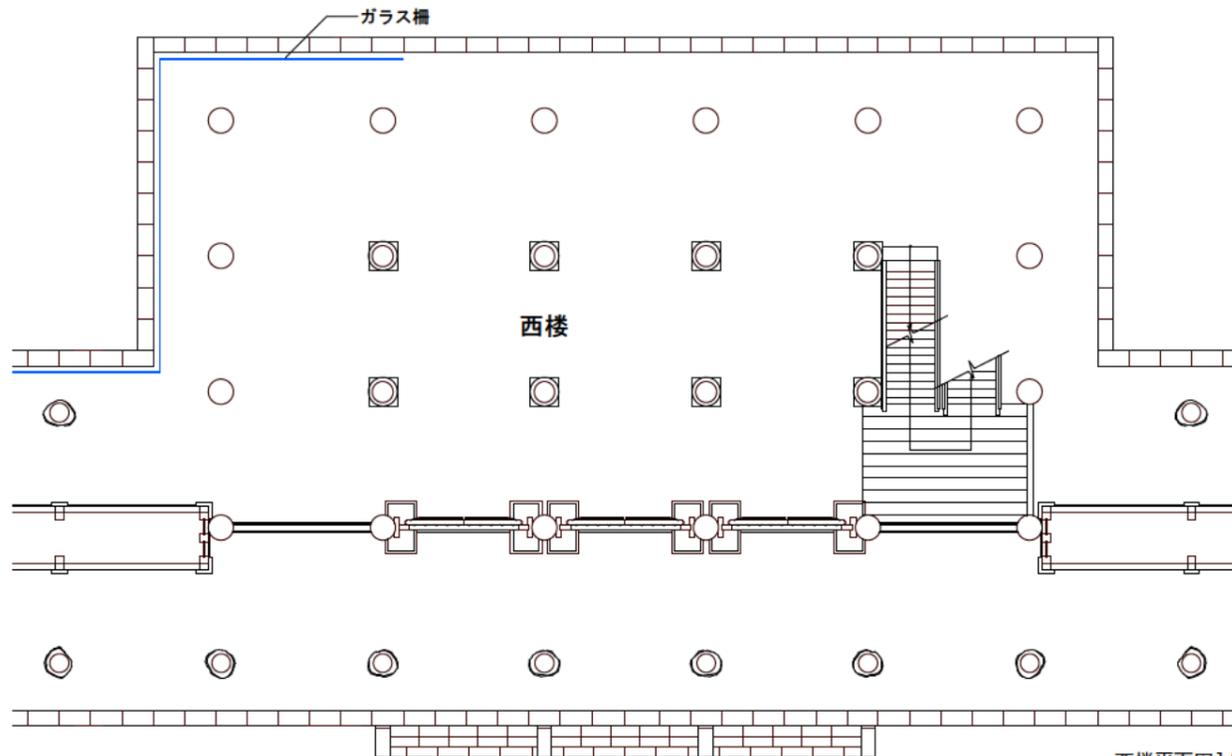
2. 展示用施設



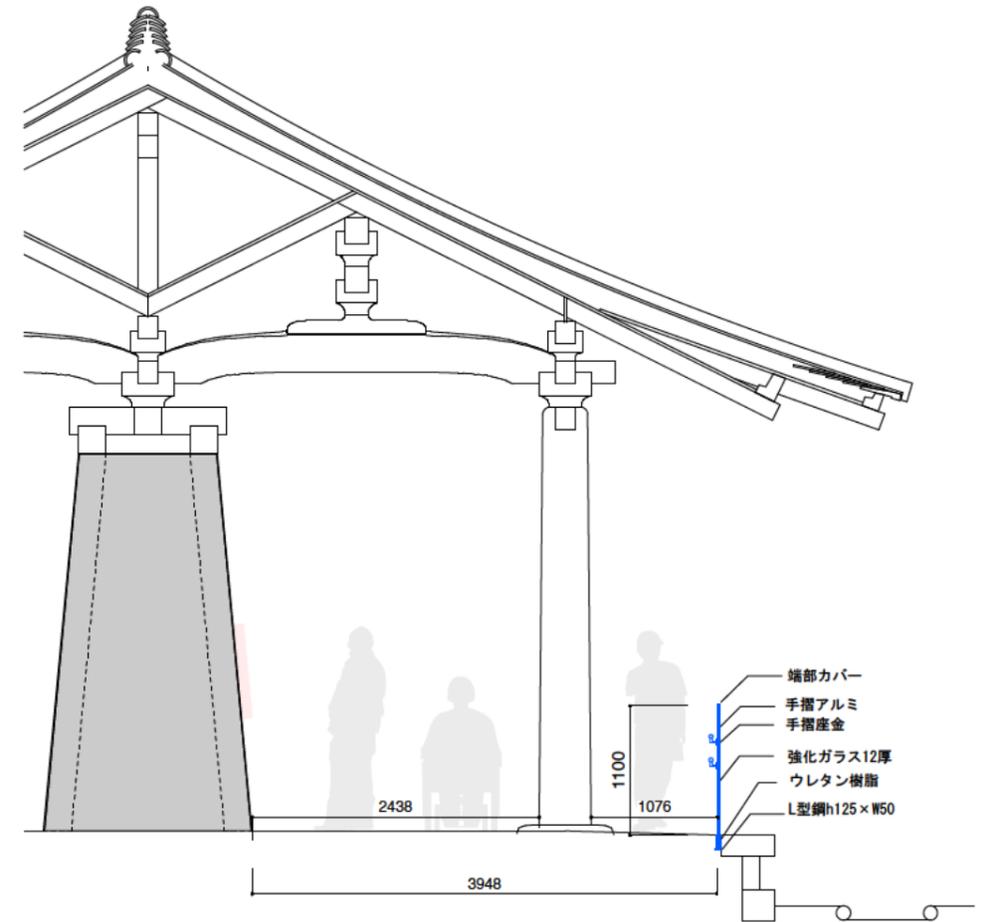
展示室平面図1/200



展示室東立面図1/200

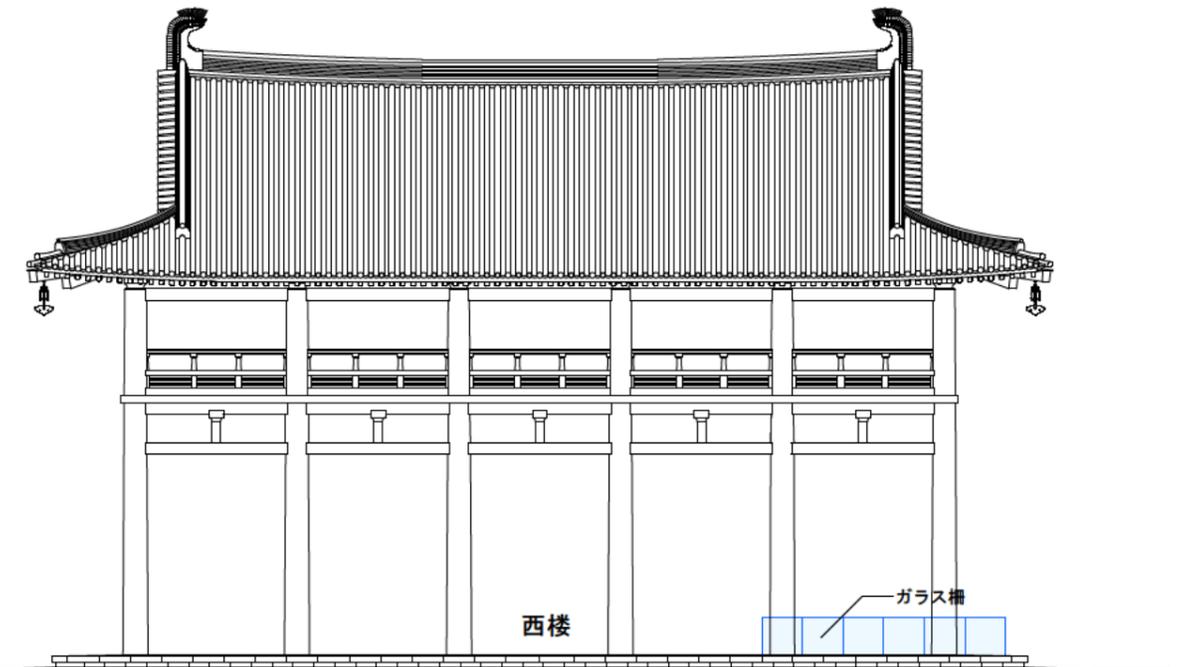


西楼平面図1/200



展示室断面図1/60

- 端部カバー
- 手摺アルミ
- 手摺座金
- 強化ガラス12厚
- ウレタン樹脂
- L型鋼h125×W50



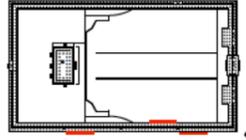
西楼北立面図1/200

回廊の縁にガラス柵を設置

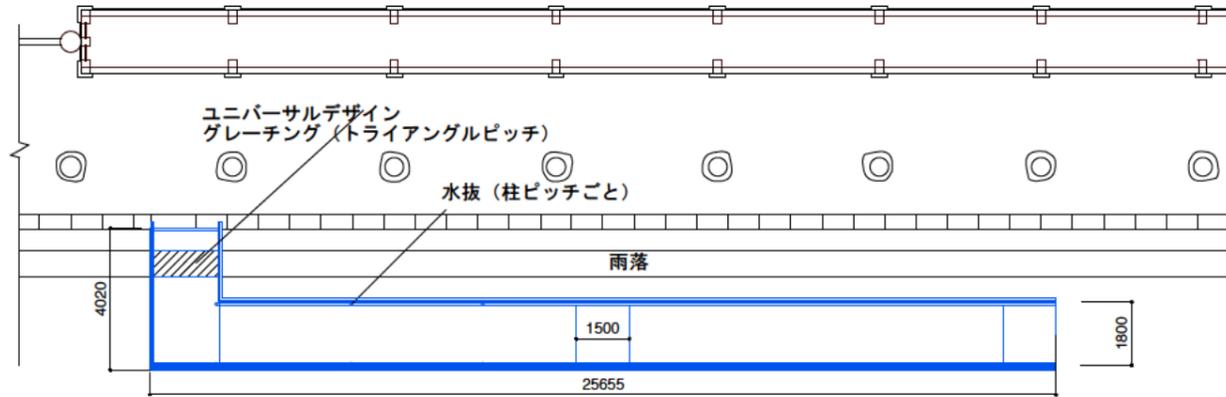
〈方針〉 基壇縁部に転落防止用として高さ1100mmのガラス柵を設ける。

〈検討事項〉 西楼部分を正殿と同じようにガラスで囲うかどうかは今後の検討である。

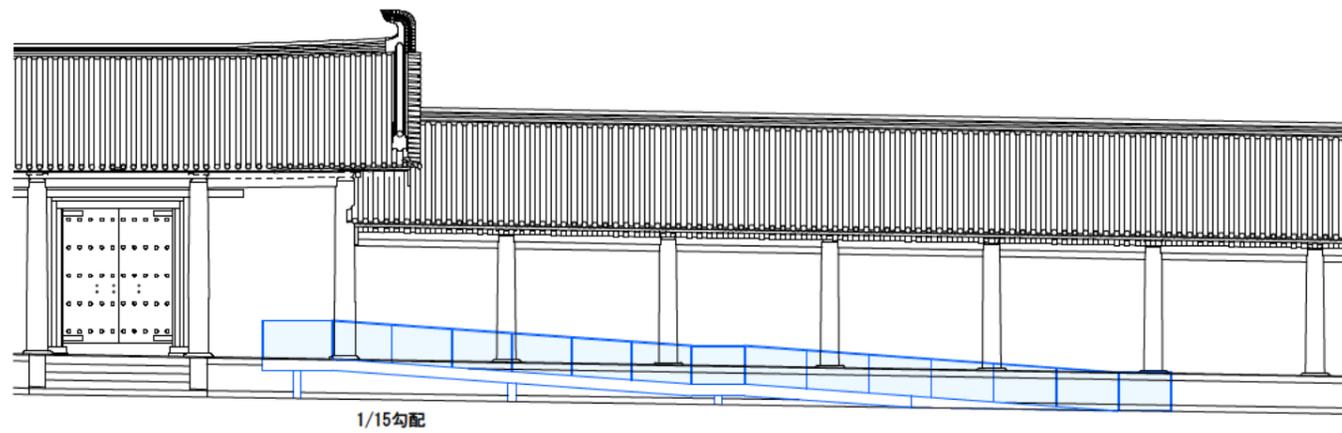
3. 通路等 (1) スロープ



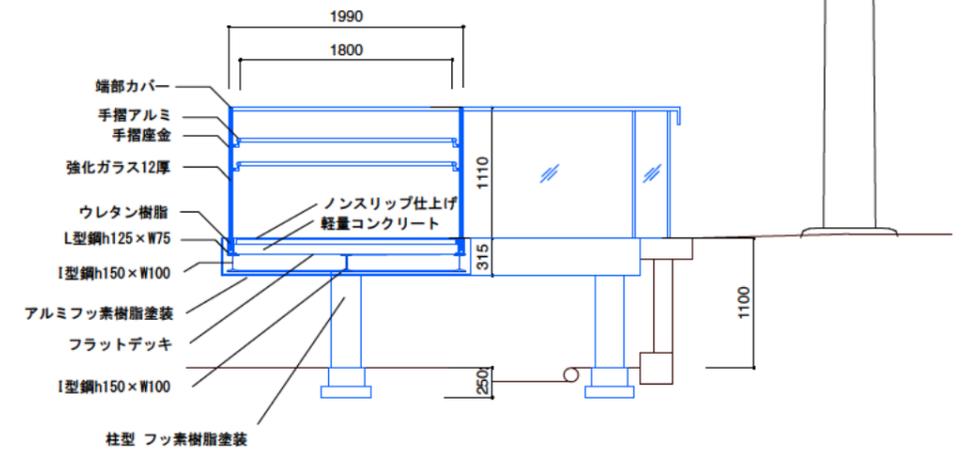
「都市公園の移動等円滑化整備ガイドライン」平成20年1月 国土交通省に基づき検討。
 有効幅：車椅子同士のすれ違いを考慮して、180cm以上が望ましい
 勾配：傾斜路の縦断勾配は、8%以下（約1/12）
 水平部分：高さ75cm以内ごとに長さ150cm以上の水平部分を設ける
 手摺：一段の手摺を85cm、二段の手摺を65cm程度とする



スロープ平面図1/200



スロープ立面図1/200



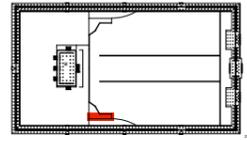
スロープ断面図1/60

雨落をよけてスロープを設置

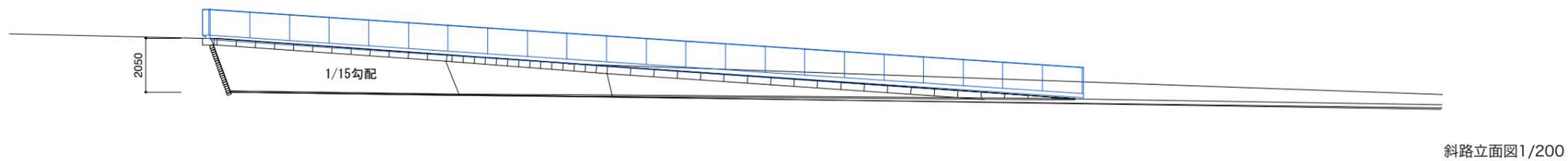
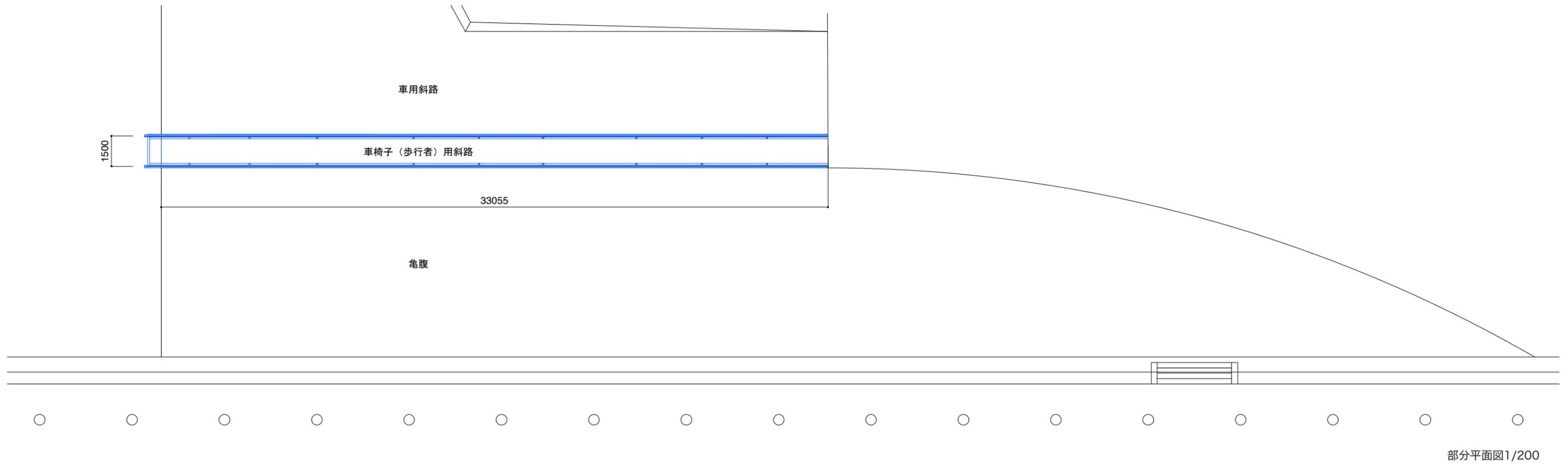
〈方針〉 雨落真下にスロープを設置すると劣化しやすくなるため、雨落を除けてスロープを設置。

3. 通路等

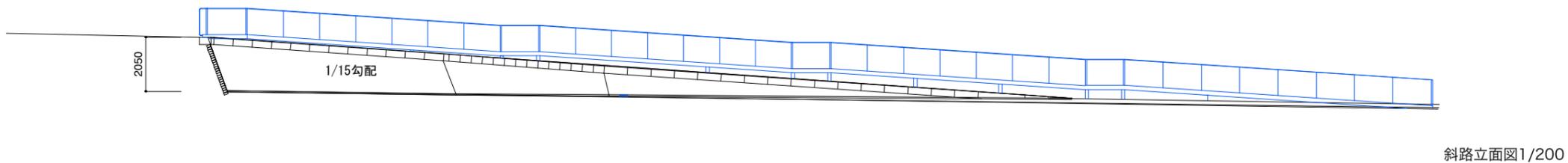
(2) 園路 (斜路部分)



「都市公園の移動等円滑化整備ガイドライン」平成20年1月 国土交通省に基づき検討。
有効幅：車椅子同士のすれ違いを考慮して、180cm以上が望ましい
勾配：傾斜路の縦断勾配は、8%以下（約1/12）
水平部分：高さ75cm以内ごとに長さ150cm以上の水平部分を設ける
手摺：一段の手摺を85cm、二段の手摺を65cm程度とする



ガイドラインに沿って踊り場を設ける



〈検討事項〉 斜路及び亀腹の復原整備方針に合わせて、園路の整備を検討する。